



学校だより1月
上野小・中学校
文責：黒木

新年あけましておめでとうございます！

新年あけましておめでとうございます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。



土曜日、日曜日、祝日を含め18日間の冬休みが終わり、いよいよ3学期が始まりました。今日の始業式、小・中全員の子どもたちと一緒に3学期をスタートをできることが何より嬉しいです。

さて、今年の干支は酉年です。この「酉」には<収穫、親切>という意味があるそうです。この意味を考えてみますと、<収穫>とは、

「早起きは三文の得」とは誰もが知ることわざがあります。同じ意味で「早起き鳥は餌にありつける」というものもあります。早期の活動開始が収穫をもたらすという意味です。つまり先を見た実践こそが大切ということではないでしょうか。

<親切>とは、

酉年は「取り込む！」という言葉とかけて、商売に縁起の良い年だと言われています。人と人がふれあう機会が増えることから、お互いを認め合い、絆を深めるということではないでしょうか。

この「収穫」「親切」の言葉を大切に、保護者、地域の皆様とともに子どもたちの教育活動に取り組んで参りたいと思います。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

収穫祭をしました！

12月18日（日）に小学校5年生が、お米づくりのまとめとして「収穫祭」を行いました。当日は、ご協力いただいたJA青年部の皆様、5年生の保護者の皆様に来ていただき、上野（高千穂）の農業に関する学習会や餅つきを行いました。つきたてのお餅と保護者の皆様に作っていただいた豚汁、おにぎりを食べながら、思い出に残る楽しい時間を過ごすことができました。ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



2学期終業式、表彰集会で発表した児童の作文と読書感想文を紹介します。

<終業式での発表>

「2学きをふりかえって」

1年 かい ゆいと

ぼくは、2学きにあるうんどうかいをもくひょうにしていました。その中でも、リレーでさいごまで走ることが1ばんのもくひょうでした。うんどうかいほんばんでは、ぼくは1そう目だったので、次の人に「はやくわたしたい」というきもちでいっぱいでした。

「よーい、ドン。」

みんなでいっせいにはしり出しました。はしりおわって、ともだちにバトンをわたしたときに、「さいごまではしれた。」と、うれしくなりました。さいごまでがんばれたので、これからも、いろいろなことをさいごまでがんばりたいとおもいます。

ぼくが、二学きにもうすこしがんばりたかったことは、りつよう（立腰）のしせいです。ぼくは、よく足がゆかについていないことがありました。3学きは、りつようのしせいをするをもくひょうにしたいです。そのために、せすじをのばして、足をゆかにつけ、ひざの上に手をのせて正しいしせいになるように気をつけます。みんなのおてほんのようなりつようのしせいにしたいです。

<読書感想文> 県の文集に掲載されました。

「けしごむくんをよんで」

1年 ひらかわ ゆな

わたしが、この本をよんだきっかけは、先生からよんでもらって、おもしろいとおもったからです。

このおはなしは、みんなにつかわれて小さくなってすてられたけしごむたちが、学校にいて、そつぎょうしきをするというおはなしです。

わたしは、けしごむたちもそつぎょうしきすることにびっくりしました。そして、つかわれて小さくなったら、みんなけしごむたちの学校へいくことも、びっくりしました

この本をよんで、一ばんおもしろかったところは、けしごむくんがおじいちゃんにおてがみをかいているところです。けしごむくんは、おじいちゃんにつかわれていたけしごむでした。おじいちゃんがわかいころ、すきな人にお手がみをかくときに、けしごむくんをつかいました。「すき」とかいてはけて、また「すき」とかいてはけて、だんだんちいさくなりました。けしごむくんが、じぶんよりも大きなえんぴつをもって、おじいちゃんにおてがみをかいているところがこころにのこりました。

わたしもいえに、小さくなってしまったけしごむたちがあります。この本をよんで、わたしもさいごまで、けしごむをたいせつにつかおうと思いました。